

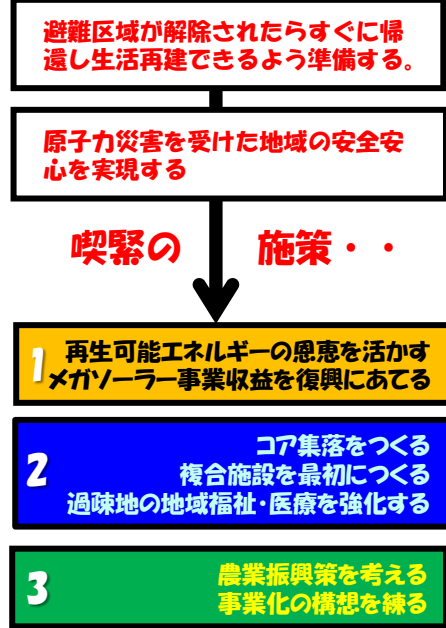
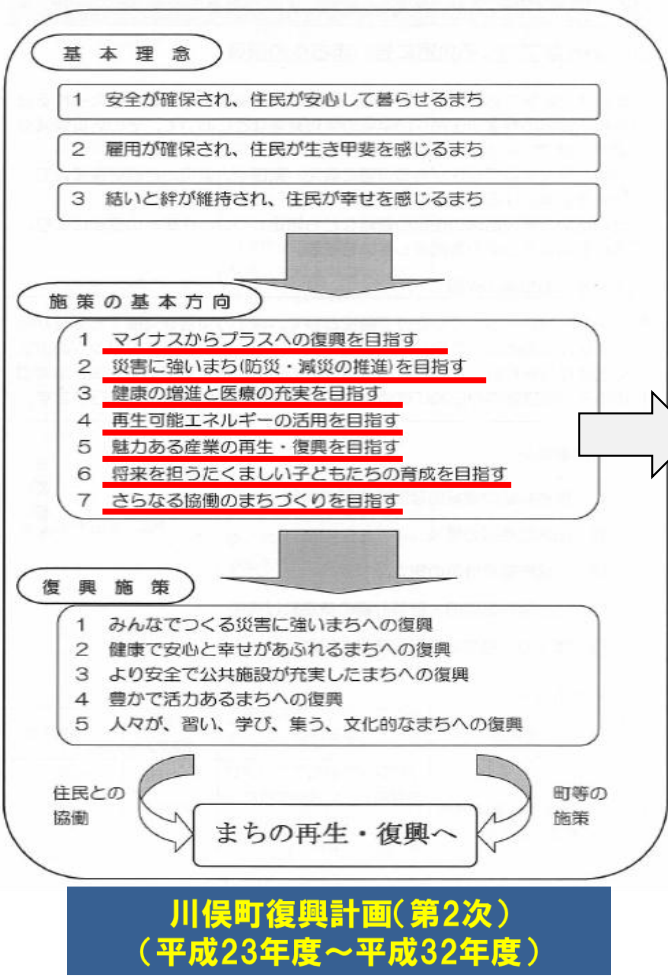
川俣町スマートコミュニティ事業がめざす 山木屋地区復興まちづくり・・・



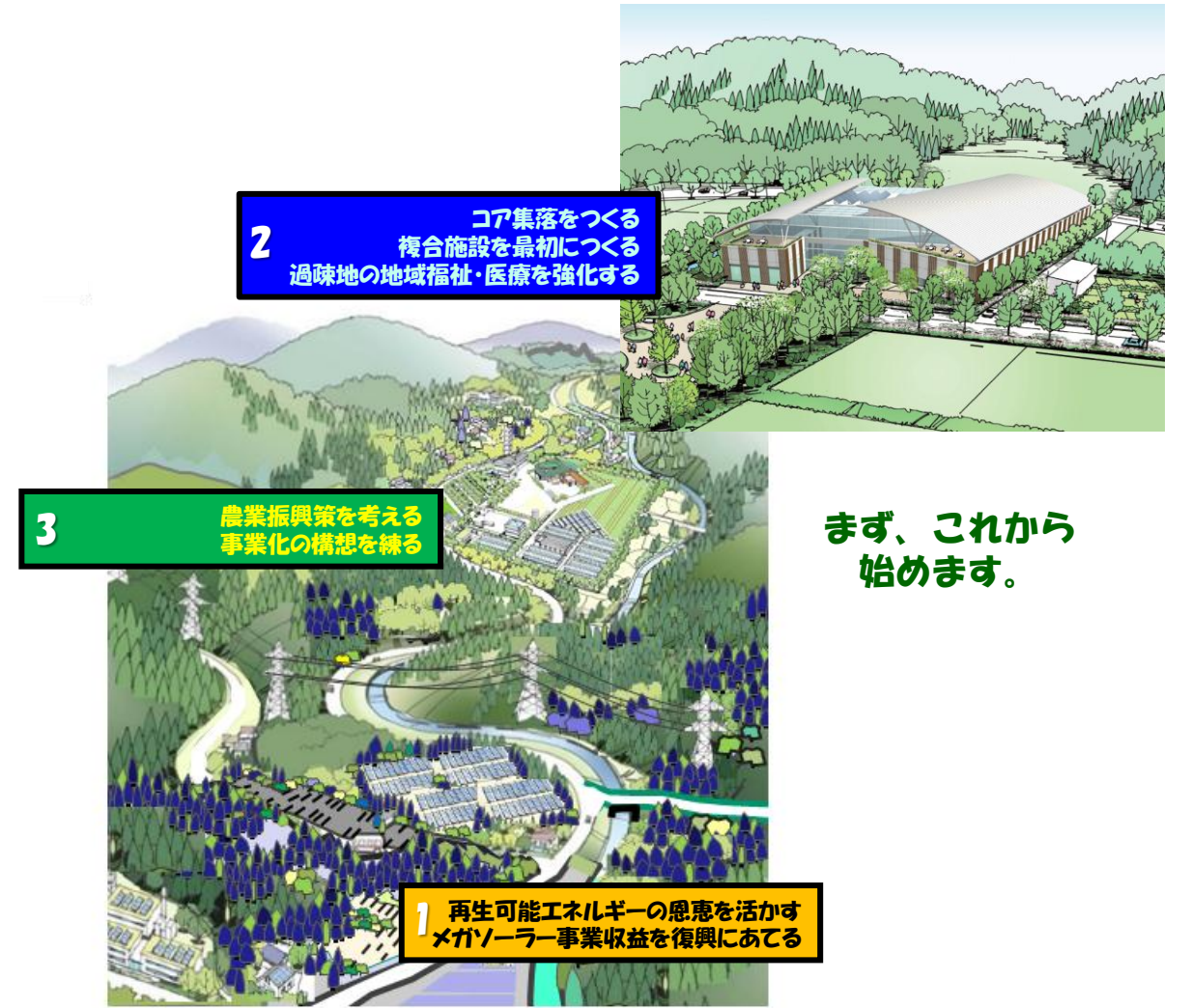
目指す暮らし方(前提)
くらしかた・はたらきかた・学び方を震災前に戻したい・・・よりよくなりたい



川俣町はエネルギーを「つくる・ためる・賢く(スマートに)使う」まちの実現をめざします。



山木屋地区復興まちづくり基本計画



平成26年3月

スマートコミュニティとは・・・エネルギーの地産地消
地域社会が、エネルギーを消費するだけでなく、つくり、蓄え、賢く使うことを前提に、地域単位で統合的に管理する社会のことです。
産業や社会生活の基盤となる住宅、施設、交通網、公共サービスなどがICT(情報技術)を利用することで、エネルギーの最適な活用ができる次世代送配電網スマートグリッドを基礎とした情報ネットワークに接続し、環境負荷が少ない暮らし方を実現します。

ここでいうスマートは賢いと訳され、「賢くエネルギーを使う」という意味で用いられています。また、CEMSとは、「地域全体で使う電力について、見える化や需要応答、節電に向けた制御、発電・蓄電などを情報システムで管理する仕組み」のことです。

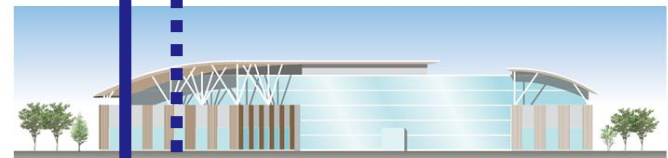
始めるのは、
まずこの3事業から...
...復興には継続して
さらなる事業を展開します...



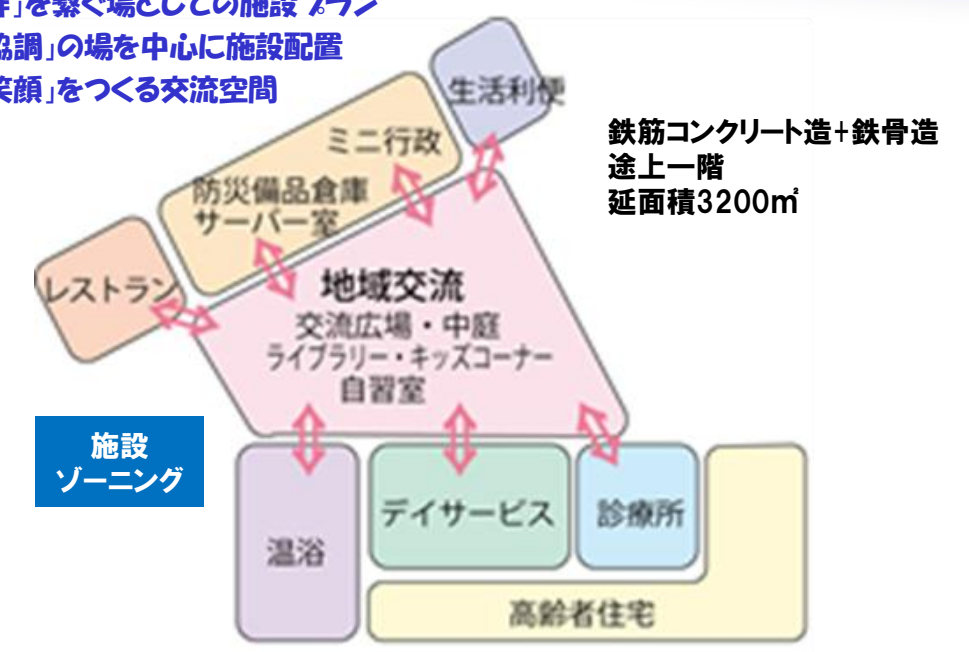
避難区域が解除されたらすぐに帰還し生活再建できるよう準備する。



「結いと絆」を繋ぐ場としての施設プラン
「融和と協調」の場を中心に施設配置
「元気と笑顔」をつくる交流空間



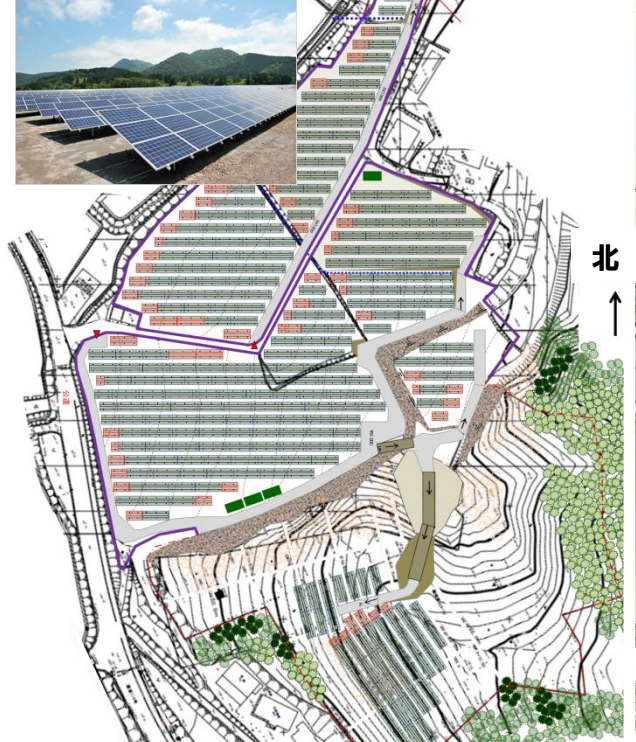
地域コミュニティの基盤を整備
生活再建・雇用拡大スタートライン



鉄筋コンクリート造+鉄骨造
途上一階
延面積3200㎡

1 再生可能エネルギーの恩恵を活かす
メガソーラー事業収益を復興にあてる

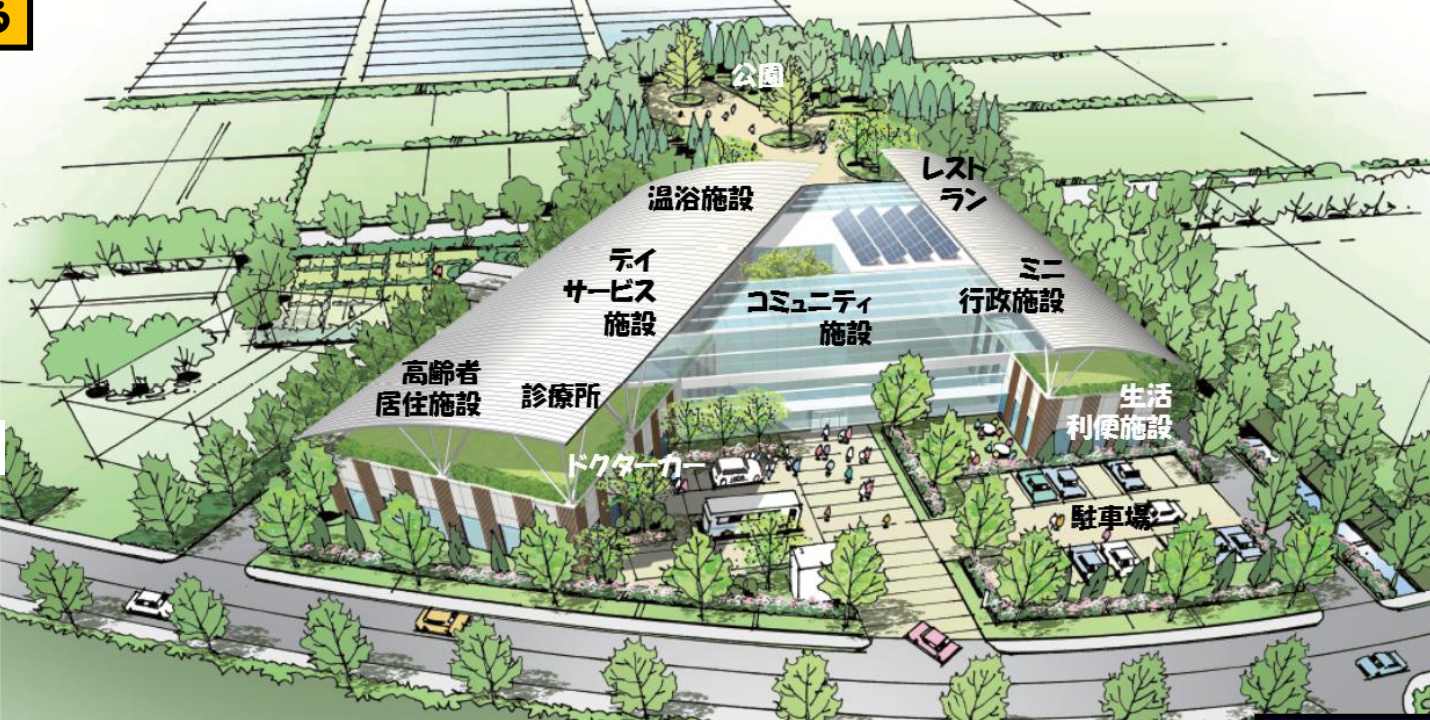
総設置容量2200kW
最も早ければ、2015年
7月から売電可能



川俣町と民間会社が出資して事業会社を設立し
売電(FIT)事業を行うスキーム

平成26年度
再生可能エネルギー導入に関する補助金活用
1/3補助!!

2 複合施設を最初につくる



防災拠点機能高度化
防災備品を備え、災害時には
どこよりも頼りになる施設。



万全の寒冷地対策
(やませの吹く寒冷気候にそなえて)
地域のコミュニティを守る複合施設は冬も安心。



50%の省エネルギーを目標
最高水準の省エネ施設になります。

ユニバーサルデザイン実現
高齢者・障がいのある方など、誰に
でもやさしい施設
帰られる方々に安全なやさしい施設を約束

ドクターカーによる
地域包括医療福祉実現
機動性の高さが、過疎化分散して生活される
方々の健康をバックアップ。



2 過疎地の地域福祉・医療を強化する

3 農業振興策を考える
事業化の構想を練る

6次産業化や新しい
農業をめざす山木屋
地区独自の農業振興
策を確立し、事業化
を進める。



- 植物工場立上
- 高性能農業温室
発災前の/ウハウウ伝承
- 接ぎ木苗・種苗取り組み
- 花卉・トルコ桔梗増産
- 農産品加工場整備連携

- エネルギー地産地消する農業振興
- 多様な園芸植物自作型開発

